

東福鍛工 株式会社

熱間自由鍛造の技術を 駆使し、あらゆる形に成形

納期相談
コスト相談
オンリーワン技術
メイドインジャパン
試作可
小ロット



大型プレスと大型重機 3 台で製品を製造する

主な事業内容

熱間自由鍛造部品の製造・販売・加工・熱処理・非破壊検査

主な取引先(納入先)

半導体、工作機械、自動車、航空宇宙などのメーカー

主な製品

半導体製造装置、工作機械、電気自動車製造装置部品

業務内容 熱間自由鍛造を伝える

東福鍛工は、前々会長の田中一夫氏が昭和39年に大阪市西淀川区にハンマー鍛造で創業。数年後には、当時では珍しかった800tの大型プレス機をいち早く導入し、最大7tまでの鍛造部品の製造を実現した。三代目となる清水芳洋社長は、令和7年には新たに1200tの大型プレス機の導入を計画しており、国内では数社しかない熱間自由鍛造の技術を現在に継承しつつ大型かつ重量部品を製造している。

特殊鋼やステンレス鋼などの大型部品を一品から製造し、また、難しいとされる鍛造加工も自社内で行えるのが同社の特長。取引先は半導体部品メーカー、航空宇宙部品メーカー、工作機械メーカー、建設機械部品メーカーなど多岐にわたる。

強み 一貫対応で短納期を実現

各種製鉄向けロール軸や工作機械用クランクシャフトなど、重量7t、長さ約6・5mの鍛造加工が行える。強みは、鋼材切断から鍛造、熱処理、荒加工、検査、搬入までのすべてを一貫対応できること。鍛造のみであれば最短3日での納品が可能である。また、超音波探傷技

士レベル2資格保有者が在籍し、顧客の品質基準に沿った検査にも対応。顧客からの信頼も厚い。

併せて、ここ5年間は、設備投資などを通じて、熱間自由鍛造技術を継承する体制づくりにも努めてきた。社員の平均年齢は30代半ばと若く、社長自身が現場で製造に携わることで、技術を継承しつつ高難度の加工に挑んでいる。また、温室効果ガスの排出量削減目標を求める「SBTイニシアチブ」の認定を取得し、環境配慮型のものづくりを実践する。このように社会課題や社会情勢をいち早く捉えチャレンジするのも同社の強みである。

使命感 残す 熱間自由鍛造の技術を

「熱間自由鍛造の技術を日本に残す」とは、東福鍛工の使命と考えている。清水社長はこう熱く語る。日本の製造業にとって欠かせない部品素材を提供する一丁目一番地の同技術は、わが国の未来には必須であるにも関わらず、この技術を保有し、現存するものづくり企業の数は多くない。自社の商売よりも、この国に必要な技術を残し、後世に安全で豊かな日本での幸せな暮らしを引き継いでいく。その使命感を胸に日々、継続的で持続可能な事業の展開に奮闘している。

社長あいさつ



代表取締役社長
清水 芳洋さん

机上の計算を無視し、技術と経験のみで製品を作り上げる“根性”が私たちにはあります。どうやって作っているの?とよく聞かれますが、“根性”とどんなことをしても作ってみせる!という“やる気”が、私たちの最大の強みです。

主な保有設備

- 熱間鍛造用プレス (1200t)
根上シヤ製 1台
- 熱間鍛造用プレス (500t)
川崎油工製 1台
- 高性能加熱式パッチ炉
新潟ファーマス工業製 1台
- CNC旋盤 DL120
大日金属工業製 1台
- 汎用フライス旋盤
ニデックオーケーケー製 ほか
10台

大阪
06

住 所 / 〒555-0041
大阪市西淀川区中島
2-13-28

T E L / 06-6474-1248

F A X / 06-6471-7468

創 業 / 昭和39年5月

設 立 / 昭和45年9月

資本金 / 1,200万円

従業員 / 11名



自社内で荒加工を行う



社員全員で映画のようなポスターを制作

<https://www.toufuku-tankou.co.jp/>